



発行所  
下関市後田町  
下関商業高等学校新聞部  
編集兼 下商新聞部  
発行人  
印刷所  
泉菊印刷株式会社  
電話代表(248)三五五三番

# 下商物語 (その五十五)

## 下商新聞創刊「四百号」を祝して

本校教諭 林 俊行

昨年(昭和二十五年五月一日)発行で、下商新聞は四百号となりました。昭和二十五年五月一日(月)に、生徒の手によって創刊され実に七十年の月日を経て記念すべき四百号の発行(途中で号外・合併号があります)が通算四百号は確かです)となりました。

終戦後の学制改革(教育基本法、学校教育法公布)に依り昭和二十三年に新制高等学校が発足して、それまでの下関商業学校は三年制の下関商業高等学校となりました。その新制高校の一期生が当時の下関東高校(現在の豊浦高校)発行の学校新聞に影響を受けて本校でも学校新聞を発行しようという運

びとなりました。平成三十年十月十三日に開催の同窓会総会時に発行された同窓会誌に創刊当時の思い出を中山巖氏(昭和二十六年卒)に「下商新聞」誕生 インサイド・ストーリーとして筆者が約三年前に市内のご自宅に向いてお願いして特別に寄稿文を掲載させて頂きました。それによると有志の四名(中山巖・高野正雄・青木俊雄・田中英雄)によって、当時門司にあった毎日新聞社に見学に向き、顧問を荒木兵一先生(当時は教務主任)にお願いして、当時の上田強校長に一面に「古くて新しい学校」という表題で寄稿文をお願いして苦勞して創刊に漕

ぎ着けたとのことでした。ちなみに下商新聞の題字は、三年生の園田良次(美術部)君の作品とのことでした。

参考までに創刊後、百号毎の発行年月日を紹介しますと次のようになります。第百号 昭和三十六年十月十八日(水) 第二百零号 昭和五十二年三月二十五日(金) 第三百号 平成十年七月十八日(土) そして四百号 令和二年十二月二十四日(木)といった経緯を辿ってきたわけですが、最初の頃は現在の倍の発行ペース(約二ヶ月毎に発行)で生徒中心とはいえ、いかに大変であったかが窺えます。当時の部員だった方から詰めは印刷所に泊り込みで発行したことが懐かしいと言われたことを思い出します。

下商物語の第二十八話(平成二十六年七月十八日号)で下商新聞のはなしを紹介させて頂きました。が、新聞部員による先生方の御家庭拝見、パパを語る、先輩は語る、

こんにちは先生、学校訪問記事、あの頃(在職教員の青春時代の思い出)など実に興味深い記事がありますから一読して下さい。

ところで本校定時制にも「下商定時制新聞」が発行されており、昭和三十二年七月十九日(金)の創刊から昭和三十五年十二月十七日(土)まで十五号に亘って発行されてきました。こちらも筆者が以前(平成十一年七月)発行した「下商新聞縮小保存版(発行三百号記念に制作)」や「下商新聞縮小保存版(創立百三十周年記念)」に全号を掲載してまとめています。本校図書館(万古館)の一階閲覧室にて自由にご覧いただけます。現在は、写真新聞部の顧問の先生や生徒の皆さんで素晴らしい学校新聞として発行されています。本校の大切な記録を遺して次代に繋がることの大切さを感じています。

令和3年3月1日(月)発行